

【様式1】

令和5年度 授業改善推進プラン

東久留米市立本村小学校 第5学年

教科	学力に関する各調査に基づく児童の学習状況分析 (数値等で具体的に示す)	具体的な授業改善策及び目標値 (数値等で具体的に示す)
国語	<ul style="list-style-type: none"> 漢字の書き取り問題の正答率が8割以下の児童が半数以上いる。 自分の考えを伝えるように文章で書き表すことができている児童が3割程度いる。 	<ul style="list-style-type: none"> 漢字小テストを行い、間違えた漢字を次回再びテストする。 漢字の読み方を確かめるために漢字ドリルの音読をする。 単元ごとにゆっくり範読をして、読み方を確かめる。 朝の国語タイムで日記を書き、文章を書くことに慣れ親しませる。
算数	<ul style="list-style-type: none"> わり算の筆算が身に付いていない児童が半数程度いる。 文章問題から立式できていない児童が3割程度いる。(ワークテスト知識・技能 平均76点) 	<ul style="list-style-type: none"> 毎授業の頭に計算時間を設定し、わり算の筆算に必要な四則計算の仕方を振り返る。 算数の時間の最初に5分間のスキルアップタイムを設け、常に計算練習を行って四則計算を基本とした計算力の向上を図る。(ワークテスト平均80点) 文章題の問題の際は、下線を引かせ、何を問われているのか考えさせたり、図や表に表したりしながらかけ算かわり算かを考え
理科	<ul style="list-style-type: none"> 比較して差異点を見つけたり、経験や既習事項に基づいて予想を立てたりすることができている児童が半数程度いる。 実験や観察の結果から、経験や既習事項に基づいて考察することができている児童が半数程度に留まっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 導入時に図や写真、動画等を用いて問題提起をし、順序立てて説明する。 考察することを明確にしたり、型を示したり、書けている児童の考察を紹介したりする。
道徳	<ul style="list-style-type: none"> 発言する児童が固定化されており、自分の考えに自信がないことにより、発言を控える児童がほとんどである。 向き合うことに課題が見られる児童3割程度いる。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えをグループで交流するなどの場を毎時間設定する。 発言していない児童の中に同じ考えをもっている児童がいないか確認する。 考える時間を十分に設ける。また、考えが浮かばない児童には個別の問い掛けをする。